

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
仙台医健・スポーツ専門学校		平成19年3月29日		矢戸 周哉		〒 984-0051 (住所) 宮城県仙台市若林区新寺二丁目1番11号 (電話) 022-292-2141																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人滋慶学園		昭和58年12月23日		浮舟 邦彦		〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西六丁目16番2号 (電話) 03-6808-3201																															
分野		認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																											
文化・教養		文化・教養専門課程		こども保育科		令和 3(2021)年度				令和 3(2021)年度																											
学科の目的		子どもたちが心身ともに健やかに成長できるよう、専門的な知識や技術を身につけます。また、認定こども園や障害児保育、福祉施設など、目まぐるしく変化する保育のニーズに合わせたカリキュラム展開の中で、現場で即役に立つ応用力や実践力の向上を目指します。																																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)		子供たちと共に成長でき、自分らしさを発揮し、一人ひとりを大切にみていく視点を持った保育士を育成します。 退学率:0%																																			
修業年限		昼夜		全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義		演習		実習		実験		実技																							
3		昼間		※単位時間、単位いずれかに記入		2,715 単位時間 〇〇 単位		150 単位時間 〇〇 単位		510 単位時間 〇〇 単位		270 単位時間 〇〇 単位		0 単位時間 〇〇 単位		0 単位時間 〇〇 単位																					
生徒総定員		生徒実員(A)		留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)																															
120 人		8 人		0 人		0 %																															
就職等の状況		■卒業者数(C)		:		6 人																															
		■就職希望者数(D)		:		6 人																															
		■就職者数(E)		:		6 人																															
		■地元就職者数(F)		:		5 人																															
		■就職率(E/D)		:		100 %																															
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		:		83 %																															
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		:		100 %																															
		■進学者数		:		0 人																															
		■その他		:																																	
		特段無し																																			
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載										0																									
		評価団体:										受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL																							
当該学科のホームページURL		https://www.sendai-iken.ac.jp/school/about.html																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A:単位時間による算定)																																			
		<table><tr><td colspan="2">総授業時数</td><td colspan="2">2,715 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td colspan="2">390 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td colspan="2">45 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち必修授業時数</td><td colspan="2">2,715 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td colspan="2">390 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td colspan="2">45 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td colspan="2">0 単位時間</td></tr></table>										総授業時数		2,715 単位時間		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		390 単位時間		うち企業等と連携した演習の授業時数		45 単位時間		うち必修授業時数		2,715 単位時間		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		390 単位時間		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		45 単位時間		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	
総授業時数		2,715 単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		390 単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数		45 単位時間																																			
うち必修授業時数		2,715 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		390 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		45 単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間																																			
		(B:単位数による算定)																																			
		<table><tr><td colspan="2">総授業時数</td><td colspan="2">〇〇 単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td colspan="2">〇〇 単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td colspan="2">〇〇 単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち必修授業時数</td><td colspan="2">〇〇 単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td colspan="2">〇〇 単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td colspan="2">〇〇 単位</td></tr><tr><td colspan="2">(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td colspan="2">〇〇 単位</td></tr></table>										総授業時数		〇〇 単位		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		〇〇 単位		うち企業等と連携した演習の授業時数		〇〇 単位		うち必修授業時数		〇〇 単位		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		〇〇 単位		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		〇〇 単位		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	
総授業時数		〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数		〇〇 単位																																			
うち必修授業時数		〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		〇〇 単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		〇〇 単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		〇〇 単位																																			
教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)										1 人																									
		② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)										1 人																									
		③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)										1 人																									
		④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)										0 人																									
		⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)										1 人																									
		計										4 人																									
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数										2 人																									

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役職員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役職員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業や教育課程を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂くこととしています。また、教職員による企業訪問等を通して、更なる情報収集を図っています。それらを十分に生かしつつ、教育課程や授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を実施しています。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校の教育課程編成委員会は理事会の基に設置され、委員会の適切な運営は理事長が担保することになっています。また、委員会の審議を通じて示された企業等の要請、その他の情報や意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努めることを目的として、教育課程編成委員会を運営します。委員会で提案された意見は、学科会議で具体的な実践方法を検討し、教育課程編成に取り入れます。作成された教育課程は、教務部長・事務局長・学校長の承認を経て実施されます。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
佐々木 智徳	公益社団法人 宮城県柔道整復師会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
岩井 晃	株式会社太長会 Wellness Casa 時のかけはし	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
渡邊 好孝	一般社団法人 宮城県理学療法士会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
黒後 卓也	社団医療法人康陽会 介護老人保健施設 メープル小田原	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
江澤 尚徳	みちのくフィットネスクラブ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
矢萩 裕	Physicl Condition Yamagata	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
小林 茂樹	仙台市眼科医会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
池田 陽介	北海道こども総合医療・療育センター	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
鈴木 純子	全国保育士養成協議会 東北ブロック	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
高橋 祐子	仙台YMCA幼稚園	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
吉田 孟史	学校法人滋慶学園	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
濱 絹予	学校法人滋慶学園	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
穴戸 周哉	仙台医健・スポーツ専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
池田 圭一	仙台医健・スポーツ専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
羽田 智大	仙台医健・スポーツ専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
藤村 真仁	仙台医健・スポーツ専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
川村 一之	仙台医健・スポーツ専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
片岡 洋樹	仙台医健・スポーツ専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
渡邊 友朗	仙台医健・スポーツ専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (6月、2月)

(開催日時(実績))
第1回 令和4年6月12日 18:30~20:00
第2回 令和5年3月25日 18:00~19:30
第3回 令和5年6月11日 18:30~19:50

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
教育課程編成委員からは、学校としてどこまでの基準に学生を育成したいと思っているのか、特にピアノ演奏や制作における教材研究などは不得意だからと言って許容されるものではありません。とのご意見を頂いた。学校としては、ピアノ教育課程は既定の7倍の授業を実施しており、実習に関しては個人の得意を活かせるような実習先の選定、業界へ進んだ際にスキルアップを目指せるための最低限の学習課題が達成できるようサポートしていきたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
学校と業界が協力して業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出すという「産学連携教育システム」の基、即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携し、専門知識・技術、人間力を持ち合わせた人材育成を行います。また、教育課程に基づいて学外実習を実施し、教育課程における位置付けや成績評価基準、意義についても明確にしています。また、実施要領・マニュアル等を整備し運用しています。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
連携企業と講師業務委託契約書を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行います。授業は、兼任教員(非常勤講師)と学校が協議して作成したシラバスを基に進行され、成績評価は授業毎での到達目標への達成度並びに学期毎の定期試験の結果を以て総合的に評価されます。非常勤講師と専任教員は常に連携を密にし、情報共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に取り組んでいます。また、講師会や授業アンケートを基に授業実施後の連携も密にし、以降の授業改善にも反映させます。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
情報処理入門Ⅰ	Word・Excel・PowerPointのオフィスの基本操作を習得し、あらゆる文書の作成ができる。	有限会社シュークリア
教育実習	幼稚園で実践的に学ぶことを通して、目指す保育写像を具体的に持つことができるようになる	茅野の芽星谷幼稚園、認定こども園めぐたま、岩沼さくら幼稚園、大野田幼稚園、福島ほなみこども園、他
保育実習Ⅰ(保育所)	保育現場において生きた保育技術を学び、実践力を身につける	岩沼保育園、あい保育園長町南、白石はるかぜ保育園、泉チェリー保育園、スケッチ保育園、他
保育実習Ⅰ(施設)	施設養護に関わる職務・役割を実践的に学ぶ	仙台つばさ荘、児童養護施設双葉荘、JOCA東北、大野田萩の園、就労支援施設B型八枚田、他
保育実習Ⅱ	前回の実習を踏まえて、より応用的に保育所での実践を行う	利府葉山保育園、いわでやまこども園、泉チェリーこども園、白石はるかぜ保育園、あい保育園長町南、他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教員研修規定において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。また、中途退学者防止に向けた「学生ひとり一人」に対する対応案の企画立案・実施・評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心と捉え、ファカルティ・デベロップメント活動(FD活動)を推進する専任教員に対して、以下の要素が年間を通した授業内容に反映されるよう研修を行っている。①キャリア期養育の視点②ひとり一人を見ていく視点
更に、専任教員と兼任教員(非常勤職員)で組織する講師会義において、この方針を共有し授業内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を行っている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	宮城県幼稚園教育実習連絡協議会	連携企業等:	宮城県幼稚園教育連絡協議会
期間:	令和4年4月15日(金)	対象:	宮城県幼稚園教育連絡協議会加盟養成校
内容:	令和3年度教育実習の問題点・反省点について、令和4年度教育実習の予定について打ち合わせ会		
研修名:	新しい保育イニシアチブ2022	連携企業等:	一般社団法人全国認定こども園連絡協議会
期間:	令和4年8月21日(日)	対象:	保育関係者
内容:	「あたらしい保育のカタチを考える」をテーマに、待機児童問題解決後の保育所。幼児教育の在り方考える		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	2022年度FDミドルレベル研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和4年7月13日(水)	対象:	学科長クラス以上
内容:	FD研修の目的とその展開を理解し、学科のスタッフの成長を促進できる。学修成果を用いた授業改善の為に「評価」について改善できる。		
研修名:	2022年度進路アドバイザー研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和4年8月26日(金)	対象:	進路アドバイザー資格取得者
内容:	進路アドバイザーとして、多くの知識と下記留の向上を図る。		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	宮城県幼稚園教育実習連絡協議会	連携企業等:	宮城県幼稚園教育連絡協議会
期間:	令和5年4月21日(金)	対象:	宮城県幼稚園教育連絡協議会加盟養成校
内容:	令和4年度教育実習の問題点・反省点について、令和5年度教育実習の予定について打ち合わせ会		
研修名:	全国保育士養成協議会東北ブロック 令和5年度第1回総会・情報交換会	連携企業等:	全国保育士養成協議会東北ブロック
期間:	令和5年4月22日(土)	対象:	保育士養成施設
内容:	保育士養成の諸情勢に関する研究報告・情報提供		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	2023年度《学科長対象》FDマイクロレベル研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和5年7月5日(水)	対象:	学科長クラス以上
内容:	滋慶学グループのFD研修について、滋慶学園グループにおける授業デザインとその技法、事前課題		
研修名:	2023年度FDミドルレベル研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和5年7月20日()	対象:	学科長、教務部長
内容:	滋慶学園グループのFD研修について、滋慶学園グループにおける授業の考え方、学科運営の関連法規、学科運営とカリキュラムマネジメント		
研修名:	2023年度教職員カウンセリング研修＜第1次＞	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和5年9月14日～15日、26日～27日、28日～29日	対象:	入職1年目、2年目
内容:	青年期支援の基礎知識、滋慶学園における学生支援の基礎知識、学生支援のデザイン、学生を支援する法律と制度		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

【学校評価規定】として、「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、卒業生、保護者代表、近隣関係者、高等学校関係者及び業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、学校教職員が行った自己点検・自己評価を審議・評価し、様々な角度からアドバイスや支援を行うことで、学校運営の改善に活かすことを基本方針としています。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	教育成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

各委員より各項目について概ね「優れている」との評価を頂いた。また「コミュニケーション能力のさらなる向上」「退学者の低減」「基礎学力の向上」など多くのご意見を頂いた。

学校の運営会議、リーダー会議、学科会議、全体会などでこれらの意見を共有し、検討・環境整備に取り組んでいます。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
佐藤 広人	医療法人じん整形外科クリニック	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
荒井 加奈子	保護者	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	PTA
佐々木 武弘	東北説活文化大学高等学校 校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校関係者
鈴木 隆	東八中央親交会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域関係者
岩井 晃	株式会社太長会 Wellness Casa 時のかけはし	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界関係者
渡邊 好孝	一般社団法人 宮城県理学療法士協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界関係者
江澤 尚徳	みちのくフィットネスクラブ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界関係者
池田 陽介	北海道子ども総合医療・療育センター	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界関係者
高橋 祐子	仙台YMCA幼稚園	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.sendai-iken.ac.jp/school/pdf/09/evaluation.pdf>

公表時期: 令和5年8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

事業計画の実行方針で提起された目標(中途退学者の低減、就職率100%、)を具現化するために、企業等からヒヤリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成しています。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である兼任教員(非常勤講師)との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問等の機会を活用して積極的に情報提供を行っています。また、業界研修中は研修先に教職員が訪問し学生の研修状況の確認及び指導等も行っています。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育の理念、コンセプト、学校長・所在地・連絡先・沿革、その他諸活動
(2)各学科等の教育	3つのポリシー・定員、カリキュラム、卒業進級判定基準、卒業後の進路
(3)教職員	教職員数、教員実績、学校組織図
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組み状況、就職指導マニュアル
(5)様々な教育活動・教育環境	校舎設備紹介、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援への取組、健康管理
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧・諸費用について、奨学金
(8)学校の財務	財務資料
(9)学校評価	学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	海外実学研修、留学生支援・受入れ状況
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: https://www.sendai-iken.ac.jp/school/public_info.html

公表時期: 令和5年8月31日

授業科目等の概要

文化・教養専門課程　こども保育科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			英会話Ⅰ	グローバルな感性を養い、英語による日常会話の基本を学習し、活用できるようになる。	1年通年	45	3	○			○			○	
2	○			健康科学	スポーツ活動との関連の中で、健康や体力に関する知識を学び、現場で生かすことができるようになる。	1年後期	15	1	○			○			○	
3	○			生涯スポーツ	幼児期から老年期までの運動の意義や役割・技能を学び、活動のレパートリーを増やす	1年集中	15	1		○		○			○	
4	○			情報処理入門Ⅰ	Word・Excel・PowerPointのオフィスの基本操作を習得し、あらゆる文書の作成ができる。	1年前期	45	3		○		○			○	○
5	○			日本国憲法	基本的人権の尊重を中心に、子どものあんぜん・安心の守り方を学習し、幼児教育に活かせるようになる。	1年前期	30	2	○			○			○	
6	○			職業人教育	社会人としての基本的マナーを身につけ、対人援助職にふさわしい人間性を身につけることができる。	1年2年3年	180	12	○			○			○	
7	○			幼児と音楽表現	保育に生かすことのできる、音楽技術（ピアノ・歌唱）の修得や応用力を身につける	1年後期	15	1		○		○			○	
8	○			教育心理学	心理学の知識を学ぶことによって、保育の実践の中で工夫や援助ができるようになる	1年集中	15	1	○			○			○	
9	○			幼児の心理学	心理学の観点から子どもへのかかわりを考えることができる	1年後期	15	1		○		○			○	
10	○			健康（指導法）	子どもの健康・安全、運動あそび、基本的生活習慣の基礎的な知識を理解する	1年集中	15	1	○			○			○	
11	○			人間関係（指導法）	人との関わりを育てる保育者としての役割と視点について理解する	1年集中	15	1	○			○			○	
12	○			教育原理	教育の本質と意義を理解し、現代社会における教育の諸課題について考察できるようになる	1年前期	30	2	○			○			○	

13	○		造 形 表 現 (指導法)	子どもの発達と造形の発達過程の特徴を理解し、一人ひとりの発達に応じた援助ができるようになる	1 年後期	30	2		○		○			○	
14	○		音 楽 表 現 (指導法)	発達段階に応じた音楽遊びについて理解し、柔軟性に富んだ表現方法と指導法について理解できる	1 年前期	15	1		○		○			○	
15	○		環 境 (指導法)	子どもと自然との関りを深める保育方法を実践的に学び、理解できる	1 年集中	15	1		○		○			○	
16	○		言 葉 (指導法)	言葉の役割、言語獲得の理論を理解し、子どもの言葉を育む指導力を身につける	1 年集中	15	1		○		○			○	
17	○		音楽表現技術	保育に生かすことのできる、音楽技術（ピアノ・歌唱）の修得や応用力を身につける	2 年後期	15	1		○		○			○	
18	○		幼児と造形表現	様々な素材や表現方法を学び、幼児の造形表現に必要な援助ができるようになる	2 年集中	15	1		○		○			○	
19	○		幼児と健康	運動あそびの「ねらい」野実現に必要な指導技術を習得し、短期の指導計画を作成できるようになる	2 年集中	15	1		○		○			○	
20	○		社会福祉	「児童の福祉」を推進する保育士に必要な基本事項を学び、社会福祉の全体像を理解する	1 年後期	30	2		○		○			○	
21	○		社会的養護Ⅰ	用語・保護・自立支援などの社会的養護の基本的な在り方を探り、児童の支援について探求する	1 年後期	30	2		○		○			○	
22	○		劇 あ そ び (指導法)	子どもの持つ豊かな感性を身体表現により引き出す指導法、援助法を学び、実践できるようになる	1 年集中	15	1		○		○			○	
23	○		教育課程総論	教育課程の目的や意義を理解し、教育課程の編成及び指導計画の作成を理解する	1 年後期	30	2	○			○			○	
24	○		教育方法論	乳幼児期の教育方法の基本原則を習得し、保育現場における実践を構想できるようになる	1 年前期	30	2	○			○			○	
25	○		教職概論	保育者の意義や役割、職務内容を理解し、求められる対応能力、遂行する力について理解する	1 年前期	30	2	○			○			○	
26	○		保育内容総論	保育をめぐる基礎知識を習得し、保育実践に反映できるよう基本原則を理解する	1 年集中	15	1	○			○			○	
27	○		幼児と言葉	言葉の意義と機能を理解し、言葉遊びなどの感覚を豊かにする実践ができるようになる	1 年前期	15	1	○			○			○	

28	○		幼児と人間関係	人と関わる力の重要性を理解し、集団の中での子どもの育ちと必要な支援のポイントを理解する	1 年 前 期	15	1	○			○			○	
29	○		幼児と環境	五領域の「環境」の狙いと内容を理解し、「環境とかかわる力」の発達について理解する	1 年 前 期	15	1	○			○			○	
30	○		子ども家庭支援論	子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、ニーズに応じた多様な支援と現状について理解する	2 年 後 期	30	2	○			○			○	
31	○		保育原理	保育に関する基礎的な知識を養い、保育の本質を学ぶことで、保育に対する見識を持つ	2 年 前 期	30	2	○			○			○	
32	○		社会的養護Ⅱ	社会養護に関わる相談援助の方法・技術について理解し、その実践について具体的に理解する	2 年 集 中	15	1	○			○			○	
33	○		子ども家庭福祉	現代社会における子ども家庭福祉の意義や制度を学び、家族のニーズにどう対応しているか理解する	2 年 後 期	30	2	○			○			○	
34	○		幼児への特別な支援	統合教育を含む特別支援教育を理解し、特別な支援が必要な幼児への支援方法を例示できるようになる	2 年 後 期	15	1	○			○			○	
35	○		障害児保育	子どもの心身・脳の発達、知識・身体的障害について理解を含め、特別な支援について理解する	2 年 集 中	15	1	○			○			○	
36	○		子どもの食と栄養	小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食教育を学び、理解を深めることができる	2 年 前 期	45	3	○			○			○	
37	○		子どもの保健	子どもの心身の発達・特徴をはじめ、疾病・事故について学び、適切な対応ができるようになる	2 年 前 期	30	2	○			○			○	
38	○		保育の心理学	子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、発達に即した援助の基本への理解を深めることができる	2 年 集 中	30	2	○			○			○	
39	○		子ども家庭支援の心理学	家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を持てるようになる	2 年 前 期	30	2	○			○			○	
40	○		教育相談	様々な子育てに関する問題や家庭への支援を理解し、子どもや家庭への支援の基礎を理解する	2 年 前 期	30	2	○			○			○	
41	○		子育て支援	保護者支援の意義や必要性を理解し、実践事例を通して具体的に理解する	2 年 集 中	15	1	○			○			○	
42	○		教育実習事前事後指導	幼稚園実習に向けた心構えや準備に関する基礎知識を理解し、実習の目的や意義を確認する	2 年 集 中	15	1	○			○			○	

43	○		教育実習	幼稚園で実践的に学ぶことを通して、目指す保育写像を具体的に持つことができるようになる	2年後期	180	12			○		○		○	○
44	○		保育実習事前事後指導Ⅰ 保育所	保育所実習を円滑に行うために必要な事柄を学び、実習に向けた各自の目的、課題、学修計画を作成できるようになる	2年後期	15	1	○			○			○	
45	○		保育実習Ⅰ 保育所	保育現場において生きた保育技術を学び、実践力を身につける	2年後期	90	2			○		○		○	○
46	○		児童文化	現場で生かせるような様々な児童文化財の与え方・作り方を学び、児童文化の重要性を理解する	3年前期	30	2	○			○			○	
47	○		乳児保育Ⅰ	3歳未満児の成長発達・保育の内容・実践の方法を学ぶ	3年後期	30	2	○			○			○	
48	○		乳児保育Ⅱ	乳児保育の重要性と役割、月齢に応じた保育技術の基本的知識と援助法を実践的に学ぶ。	3年後期	15	1	○			○			○	
49	○		子どもの健康と安全	身近なけがや疾患、事故に対して適切な応急処置や救急処置に対応できる技能を習得する	3年集中	15	1	○			○			○	
50	○		保育実習事前事後指導Ⅰ 施設	施設実習を円滑に行うために必要な事柄を学び、実習に向けた各自の目的、課題、学修計画の作成を行う	3年集中	15	1	○			○			○	
51	○		保育実習Ⅰ 施設	施設養護に関わる職務・役割を実践的に学ぶ	3年後期	90	2			○		○		○	○
52	○		保育実習事前事後指導Ⅱ	保育所・施設実習を円滑に行うために必要な事柄を学び、実習に向けた各自の目的、課題、学修計画の作成を行う	3年集中	15	1	○			○			○	
53	○		保育実習Ⅱ	前回の実習を踏まえて、より応用的に保育所での実践を行う	3年後期	90	2			○		○		○	○
54	○		ピアノ実技	楽譜の読み方や弾き方など、ピアノ奏法の基本的な技術を身につける	1年2年通年	120	8		○		○			○	
55	○		教材研究・制作	保育で活用できる教材を作り、保育現場での展開方法までを習得し、実践できるようになる	1年2年通年	120	8		○		○			○	
56	○		ふれあい実習	地域イベントや園行事などに参加して、子供との関わり方や保育者の仕事を理解する	1年2年通年	120	8		○		△	○	○	△	
57	○		実習プレ	実習に向けて、日誌の書き方から指導案の作成等、実習に必要な知識と技術を身につける	2年通年	60	4		○		○			○	

58	○		各種特化科目 子どもの身体表現	ダルクローズのリトミックを実践的に学び、保育現場での活用法を習得する	1年後期	30	2		○		○			○	
59	○		各種特化科目 子どもクッキング	子どもが喜ぶ食事やスイーツ、また食育に活用できる献立を学び、実践できるようになる	1年後期	30	2		○		○			○	
60	○		各種特化科目 レクリエーション	各行事や集団で行えるレクリエーションを実践的に身につけ、様々な現場で生かせるようになる	1年後期	30	2		○		○			○	
61	○		資格取得科目 障がい者スポーツ指導員	障がい者スポーツ指導者に必要な基礎知識を学び、初級指導員資格を習得する	1年後期	30	2		○		○			○	
62	○		卒業研究	各自でテーマを設定して課題に取り組み、プレゼンテーションを行う	3年通年	60	4		○		○	△	○		
63	○		保育ゼミ	日々の保育に生かすことが出来るテーマを設定し、自ら深めて研究する	3年前期	30	2		○		○			○	
64	○		各種特化科目 子どもイラスト法	日々の保育に生かせるイラストの描き方を、いろいろな手法で実践的に習得する	3年前期	30	2		○		○			○	
65	○		各種特化科目 病児保育	病児・病後児の現状、保育方法を学び、病棟保育士の仕事について修得する	3年後期	30	2		○		○			○	
66	○		各種特化科目 療育指導	あらゆる障害に対しての知識を深め、障害のある子どもの実践的な指導法を学ぶ	3年集中	30	2		○		○			○	
67	○		各種特化科目 レクリエーション	各行事や集団でおこなえるレクリエーションを実践的に身につけ、資格を取得する	3年前期	30	2		○		○			○	
68	○		各種特化科目 チャイルドケア	ベビーマッサージやアタッチメントヨガなど、「愛着関係」形成に着目した保育ケアを学ぶ	3年後期	30	2		○		○			○	
69	○		各種特化科目 幼児安全法	幼児の救急救命やけがの手当て、予防法などを学び、支援員資格を取得する	3年集中	15	1		○		○			○	
70	○		各種特化科目 音楽療法入門	保育現場や障害を持つ子供たちに取り入れられている音楽療法の基礎を学ぶ	3年前期	15	1		○		○			○	
71	○		資格取得科目 幼児体育指導	発育発達の基礎知識と適切な運動指導を安全に行える、幼児体育指導者2級を取得する	3年後期	30	2		○		○			○	
合計				71 科目	2715 単位（単位時間）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等
------------	-------

卒業要件：	校長は、第10条に定める授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議に基づき、課程修了の認定を行う。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	こども保育科においては、2715時間以上を履修することとする。	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。